



世界に希望を生み出そう

会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆様、こんにちは。本日もお忙しい中、例会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

先月は紛争予防・紛争解決月間という事でしたが、今月は水と衛生月間

です。本日は水をテーマにお話しさせていただきます。まずは世界中に水はどの位の量があるかという13億8600万立方メートルという凄い量の水が存在します。しかしながら、その内の97.5%海水で淡水はわずか2.5%しかありません。この事からも水不足と言われる根底を理解できます。また、水不足を起している原因を主に3つ上げます。先ず一つ目は『世界人口の増加』です。国連の発表によると2050年の世界の人口は80億人となる見込みです。また、2080年に104億人となりピークを迎える様です。日本では人口減少に歯止めがかからない状況ですが世界では大幅な人口増となっていて衛生的な水の需要が増加しています。次に『世界的な気候変動』です。地球温暖化をはじめ幾つかの要因によって気候変動が激しい時代になっています。そうした中で河川の流量の変化や水の干ばつが起きている事から安定的かつ衛生的な水の確保が困難になっています。そして最後に水を巡った紛争の発生です。この結果、経済活動に悪影響が出て貧困に陥りやすくなると同時に安全な水不足から命を落とす事になります。次に解決支援方法についてですが、国連は持続可能な開発目標(SDGs)にて17個掲げている中の6番目に『安全な水とトイレを世界中に』としています。また、日本は2国間でのODAは世界1位であり水問題に対して積極的に取り組んでいると言えます。そして、私たち個人に何が出来るかという点ですが前回の例会で話した事に重複しますが最も貢献しやすい方法はやはり寄付となります。今後、私自身も水問題に関しても積極的に寄付を行っていきたく考えています。本日の卓話ではサントリーさんが取り組む環境問題の話が聞けるとおもいます。

本日の例会も爽やかなものになります様、お願いを申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

幹事報告

1.3月のロータリーレート 1ドル151円

2.2024年地区研修・協議会 開催のご案内

日時:4月21日(日) 登録 9:30~10:30

開会・全体会議 I 10:30~11:45

昼食 11:45~12:45

部門別地区研修・協議会 12:45~14:30

全体会議 II・閉会 15:00~15:40

懇親会は開催いたしません。

場所:県立保健福祉大学(横須賀市平成町1-10-1)

登録締切:2024年3月19日(火)

登録料:1名につき6,800円 ※昼食(弁当)代を含みます。

幹事報告

1.3月22日の例会は、ゆがわら万葉荘で行います。皆様お間違えの無いようお願いいたします。

スマイルボックス

会員誕生日 内藤良浩君(2/27)

会員誕生日 吉村行正君(3/7)

結婚記念日 深澤昌光君(3/2)

入会記念日 常盤孝司君(3年・R3.3.5)

丸塚順子君 本日は卓話でサントリーさんにお越し頂きました。宜しく願いいたします。

出席報告

ゲスト 4名 ビジター 0名

会員 22名 欠席2名(免除者0名)

出席率 90.91%

前回の修正出席率 81.82%

前々回の修正出席率 90.91%

事前メイクアップ 0名

ビジター 菅原英治様(サントリーフーズ株式会社)

石井 求様(サントリーフーズ株式会社)

小野田貢万様(サントリーフーズ株式会社)

京松康弘様(サントリーホールディングス株式会社)

卓話 丸塚 順子 君

代講 サントリーフーズ株式会社 菅原 英治 様

同 石井 求 様

同 小野田 貢万 様

サントリーホールディングス株式会社 京松 康弘 様

皆様こんにちは。このたびは国際ロータリー「水と衛生月間」に合わせましての貴重な機会を賜り、御礼申し上げます。

本日の卓話ではサントリーグループが取り組んでおりますサステナビリティについてお話いたします。

・サントリーグループ サステナビリティビジョン

サントリーグループでは企業理念として「人と自然と響き合い、豊かな生活文化を創造し、『人間の生命(いのち)の輝きをめざす。』ことを目的に掲げ、そのために「Growing for Good(人として、企業として、社会のために成長し続けること。成長し続けることで、社会を良くする力を大きくしていくこと)」、「やってみなはれ(失敗を恐れることなく、新しい価値の創造をめざし、あきらめずに挑み続けること)」、「利益三分主義(事業活動で得たものは、自社への再投資にとどまらず、お客様へのサービス、社会に還元すること)」という価値観を有し、実践しています。

サントリーグループではこのような企業理念のもと、人と自然と響き合う社会を実現するためのグループとしてのサステナビリティへの考え方と、貢献していく7つのサステナビリティのテーマを示した「サントリーグループ サステナビリティビジョン」を打ち出しています。

ビジョンの中心には「NATURE(自然)」と「PEOPLE(人)」が相互依存関係をもって並び、双方が「響き合う」社会の実現をめざすことを示しています。そして NATURE(自然)からは「水」「容器・包装」「気候変動」「原料」、PEOPLE(人)からは「健康」「人権」「生活文化」の合計7つのサステナビリティのテーマが派生し、ビジョンを構成しています。

いま世界は、気候変動に伴う水不足や環境汚染、貧困や人権侵害などさまざまな課題に直面しています。世界中の企業が2015年9月の国連サミットにおいて採択された「SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)」への積極的な取り組みが求められる中、グローバルに事業を展開するサントリーグループではこのサステナビリティビジョンをもとに、世界の課題にこれまで以上に真摯に向き合い、持続可能な社会の実現に向けての挑戦を続けて参ります。

・サントリーグループが掲げる中長期目標

持続可能な社会の実現に向けての挑戦を続けるにあたり、サントリーグループでは特に「水のサステナビリティ」「温室効果ガス(GHG)削減」「プラスチック問題」について中長期目標を掲げ、世の中に先駆けた取り組みを推進しています。今回は特に資源循環の取り組みとして、サントリーグループが取り組むペットボトル容器の「2R+B」戦略をご紹介します。

・2R+B 戦略

サントリーグループではペットボトル容器に関して、独自の「2R+B」戦略に基づき取り組んでいます。2R とは「Reduce(使う量を減らす)」「Recycle(資源として使う)」、B とは「Bio(バイオマス由来の資源(を活用する))」をそれぞれ指します。

<Reduce:軽量化>

サントリーグループではおよそ20年前より、ペットボトル・キャップ・ラベルなどの軽量化・薄肉化に取り組んできました。一例としてロングセラーのミネラルウォーター商品では2000年からの20年間で約50%の重量削減を実現しています。

<Recycle:ボトル to ボトル(水平リサイクル)の推進>

サントリーグループでは、使用済みペットボトルを他用途ではなく新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトル to ボトル」水平リサイクルに取り組んでいます。2012年に日本国内清涼飲料業界で初めてリサイクル素材 100%のペットボトルを導入したことを皮切りに、従来よりもCO₂排出量を低減するリサイクル技術の開発などを行っています。

<Bio:植物由来素材等のペットボトル>

サントリーグループでは2030年にすべての商品を100%サステナブルペットボトル(リサイクル素材または植物由来素材など)にすることを目標に掲げています。その実現のため、サントリーホールディングス(株)と米国バイオ化学ベンチャー企業・アネロテック社は植物由来素材 100%使用ペットボトルの共同開発に取り組み、実用化に近づいています。

なおサントリーグループのコーポレートWebサイト(<https://www.suntory.co.jp/>)では、サステナビリティに関する今回お話ししきれなかった取り組みや活動事例、最新情報などを掲載しています。

本日はありがとうございました。